

忍城かわら瓦版ばん

発行所：
埼玉県行田市本丸
17-23
発行人：
行田市郷土博物館

武家地不足解消へ造成進む

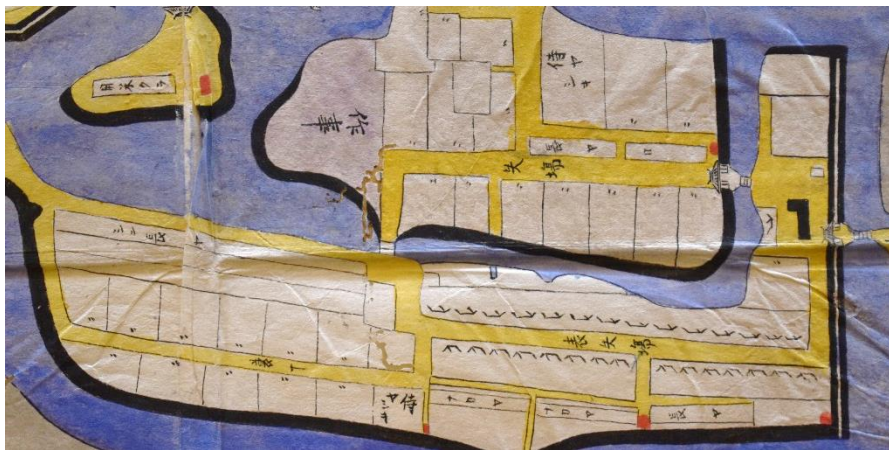
既存地分割も続行方針変わらず

いま、忍城下の武家屋敷が大きく変わろうとしている。

文政6年3月24

日、松平忠堯公は老中青山忠裕より、伊勢国桑名から武蔵国忍への国替えを命じられたのは記憶に新しい。

8月中旬頃から、城郭の受け取り日である9月28日までの期間で徐々に家臣団の引き移りが行われてきたが、そのなかで大きな誤算が生じたのである。それは、忍城下に所在する武家地の範囲が予想以上に手狭だったことだ。



↑分割された武家地(文久年間忍城図)

もともと先の忍城主阿部家は忠秋公以来、幕府の老中をはじめ要職に就く家柄でもあり、配下として勤める多くの家臣もまた江戸に暮らした。それに対して、松平下総守家は、神君家康公の系譜を受け継ぐ家門大名である。本来は15万石の大名であったが、お家騒動を引き起こした咎めを江戸幕府から受け、10万石に減封された。しかし、減封された分の家臣の放逐を行わなかったことから、零細な俸禄で大勢の家臣団を賄うことを余儀なくされた。

かくして両家は同じ10万石の大名といえども家臣団の数に大きな隔たりがあり、とりわけ、江戸詰めが多い阿部家に対して、松平家は国元結めも相応にいたのであった。

(城下在住)

武州忍御城下

丸質屋

古着 無料査定 高価買取 持込歓迎

お気軽にご相談ください

特集 忍の名所五選

新たな領地「忍」にある、「こ」だけは知っておきたい名所を紹介。名所をめぐって新領地への愛着を早々に育みたいところである。

其の壱はいにしへの権力者の墳墓と伝わる無数の塚のことである。このあたりが古くから栄えていたことを物語る墳墓である。

其の貳は利根川通りに面した堤防上から上州などを見渡すことができる眺望である。四季折々のうつろいも感じることができる。

其の参は忍城内の「うずみもん」と呼ばれる門である。かつて徳川家康公もお誉め道が門から場外の湿地に繋がっており、堀の水位によって道や門はその姿を消すのだ。

其の四は万葉集に詠まれた「さきたまの津」である。その跡地を比定した阿部正誠公はその地に万葉歌碑を建立した。

其の五は歴代城主が心を寄せた長久寺、正覚寺、大長寺をはじめとする古刹・名刹である。

(城下在住)

*夜間の見学・散策、危険な場所への立ち入りは控えること。

忍の名所五選

- 其の壱 磨墓山(丸墓山)
- 其の貳 堤からの眺望
- 其の参 忍城の御埋門
- 其の四 さきたまの津
- 其の五 古刹・名刹

(本紙選)